那覇市制施行90周年記念

広報 なはし 市民の友

第728号 毎月1回発行
2011年（平成23年）
9月

発行●那覇市　編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市上之屋1丁目2番1号
☎867-0111　●印刷 丸正印刷㈱

市の人口と世帯
※（　）内はうち外国人
2011（平成23）年7月末現在

総人口	319,260（2,156）
男	154,052（1,094）
女	165,208（1,062）
世帯数	137,690（1,267）

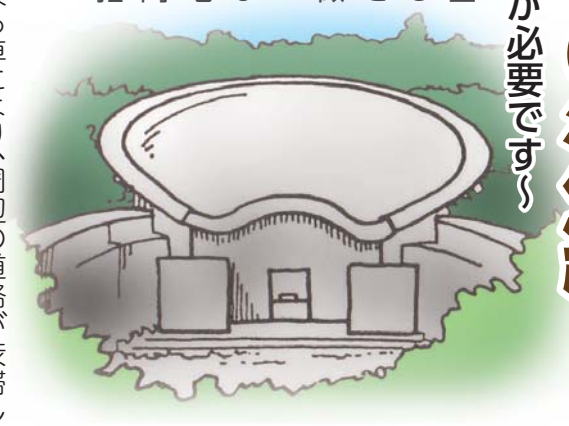
住民基本台帳人口の内訳（外国人を除く）

墓地無法地帯の沖縄

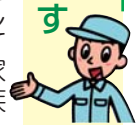
～墓を建てる場合は、県知事の許可が必要です～

門中墓（むんちゅうばか：父親方の血縁集団によって所有、使用される共同墓地）に代表するように独特の葬送文化を育んできた沖縄。墓を個人で所有し、管理する習慣が本県独特の特徴です。

この習慣が原因で、本市の市街地では様々な問題が起きています。そこで市では「那覇市墓地等に関する基本方針」を制定しました。墓地の問題を適正に対処し、住みよいまちづくりを目指します。



墓を建てる場合は、県知事の許可が必要です



墓に関する法律では、原則として家族・親族など個人による墓の経営（設置・管理）を認めていませんが、県は地域の特性に配慮し、個人の墓の経営（設置・管理）を特例として認めてきました。

結果として、法の原則が周知・徹底されず、無許可の墓が多く点在する本県の現状をつくり出しました。

墓は、どこでも建てられるわけではありません。住宅地に隣接する土地、まちづくり計画などの障害になる土地などには建てられません。

市では、公営墓地の利用を推奨していますが、個人墓を新たに必要とする方は、本市の意見書などを添えて中央保健所（☎854・1007）に経営（設置）許可申請を行う必要があります。

無許可の墓がもたらす問題

【住環境の悪化】

市は、戦後、急激な人口増加にともなって個人の墓が急増し、現在住宅地と墓地が混在しており、問題になっています。

宅地の近くに墓地があるために、墓参りに来る車により、周辺の道路が渋滞してしまい、車庫から車が出せない。墓がきちんと管理されず、雑草が茂ったり、ごみがちらかって困っているなど墓の近隣住民から苦情の声が寄せられています。

【まちづくり計画の遅れ】

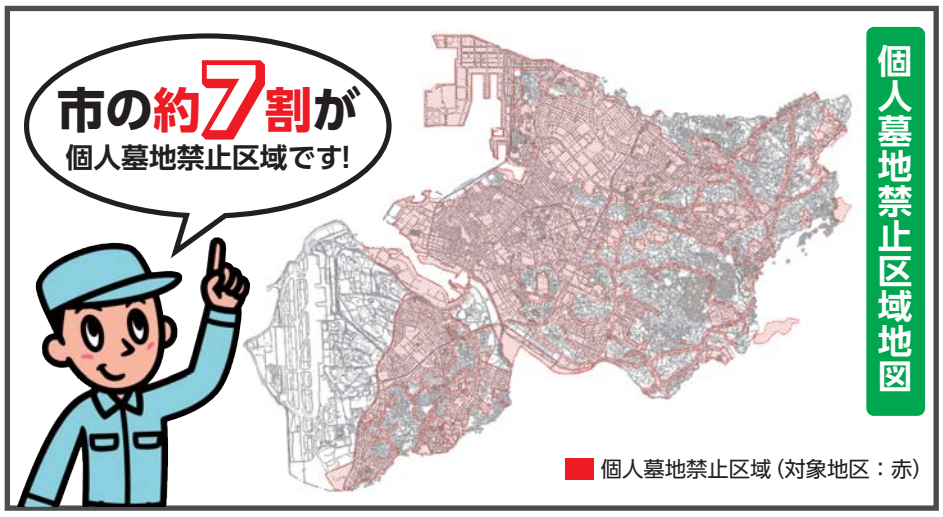
県内では、個人の墓がいたるところに建てられており、市民のみなさんの憩いの場となる公園や、商業の発展のために大切な道路を建設する際、個人の墓の移転が必要になることが他県に比べて多くなっています。所有者が不明など墓の移転がスムーズにいかない場合、まちづくり計画の遅れに繋がります。

那覇市墓地等に関する基本方針

先祖を大切にする私たち沖縄県民にとって、墓は欠かせないものです。だからこそ、きちんとした管理が必要です。

市は、墓をしっかり管理しながら、市民のみなさんが快適な生活をおくれるように「那覇市墓地等に関する基本方針」を制定しました。方針の主な取り組みとして「個人墓地禁止区域」を設けました。

個人墓地禁止区域地図



【個人墓地禁止区域】

◎公共、公益法人、宗教法人などの墓の経営を可能とするが、個人（家族・親族など）による墓の経営（設置・管理）は認めない。

◎既存の墓は容認する。墓の建て替え、改修は認めるが、墓を増やす行為は認めない。場所や場合によっては既存の墓の移転を促す。

【個人墓地禁止区域以外の地域】

◎個人（家族・親族など）による墓の経営（設置・管理）も、一定条件を付して例外的に認める。

※「那覇市墓地等に関する基本方針」について、詳しくは市ホームページでご確認ください。

お問い合わせ
環境保全課 ☎951・3229

協働さん いらっしゃい!

市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第10回 那覇市食生活改善推進協議会

那覇市食生活改善推進協議会
会長　金城節子さん

第10回は、那覇市協働大使の那覇市食生活改善推進協議会会長、金城節子さんです。協議会の活動について伺いました。

Q食生活改善推進協議会とは

この協議会は、平成4年に結成し、来年は20周年を迎えます。結成当初65人だった会員は現在125人。ボランティアの方々が年々増えてきました。小禄の保健センターを拠点に活動しています。

私たちは、市民の生活習慣病の予防、健康増進を図るために地域において料理教室や健康展を開催しています。この活動を通して市民の食生活習慣を改善し運動、禁煙、程よい飲酒の普及、推進を図りながら市民の健康づくりに資することが目標です。

Q実際の活動内容は

幼稚園児や小学生に向けて「早寝早起き朝ごはん」活動があります。母親が病気だったり、父親一人で育てている家庭や、子どもたちが自分でご飯を作らないといけない家庭には、食事作りのお手伝いをします。

朝ごはんは一日の中で特に重要なので力を入れています。

幼児期の過ごし方で生活習慣が決まってきます。自分の心と身体の健康にもっと関心をもってほしいと思います。

その他にも、糖尿病と高血圧の予防教室も開催しており、とても好評です。

地域からの要請があれば市内どこでも料理教室を行います。親子料理教室や子ども会の料理教室、婦人部や老人会でもご要望に応じてメニューを作成し、食材も用意します。（食材費徴収）

Q今後の活動計画について

協働大使としていろんな関係の方たちと手を結んで連携しながらもっと多くの自治会に広めて活用してもらいたいと考えています。

市民がもっともっと健康になることが私たちの願いです。

健康は食から!

料理に取り組む参加者

お問い合わせ
まちづくり協働推進課
☎861-3846

「いい暮らしより　楽しい暮らしを」～人と人とが支え合う協働により、心の豊かさを感じるまちを目指して～